

第 11 期中間決算について

スカイネットアジア航空株式会社(本社:宮崎県宮崎市、代表取締役社長:藤原 民雄)の第 11 期中間決算(平成 19 年度 9 月期)について、下記のとおり報告致します。

記

1. 平成 19 年度 9 月中間期の業績(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

(1) 営業実績

(単位:百万円)

	営業収入	営業利益	経常利益	当期純利益
19 年 9 月中間期	10,934	36	45	13
(前年中間期増減率)	(21%)	(-)	(-)	(-)
18 年 9 月中間期	9,052	902	996	1,038
19 年 3 月期	19,363	1,033	1,149	559

(注)営業収入には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財務状況

(単位:百万円)

	総資産	自己資本	自己資本比率	資本金
19 年 9 月中間期	5,337	39	0.7	1,934
18 年 9 月中間期	3,895	2,535	65.1	3,868
19 年 3 月期	5,945	26	0.4	1,934

2. 旅客搭乗実績(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

コードシェア販売分を除く

	当上期(前年上期差)	前年上期
宮崎 - 東京線	78.0%(+10.9P)	67.1%
熊本 - 東京線	69.2%(+16.7P)	52.5%
長崎 - 東京線	64.2%(+15.7P)	48.5%
鹿児島 - 東京線	64.8%	-
路線合計	70.5%(+14.1P)	56.4%

3. 運航実績 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 9 月 30 日)

	就航率		運航便数		欠航便数(うち天候起因)	
	今上期	前年同期	今上期	前年同期	今上期	前年同期
4 路線合計	98.5%	97.4%	6,469	5,926	99(74)	156(27)
前年上期差	+1.1%		+543		57(+47)	

天候起因以外の欠航便数は 104 便

4. 中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表(平成 19 年 9 月 30 日現在)

(単位: 百万円)

科 目	前中間会計期間末 (平成18年9月30日現在)		当中間会計期間末 (平成19年9月30日現在)		前事業年度の 要約貸借対照表 (平成19年3月31日現在)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
(資産の部)		%		%		%
流動資産	2,218	56.9	2,525	47.3	3,348	56.3
固定資産	1,665	42.8	2,800	52.5	2,583	43.5
繰延資産	11	0.3	11	0.2	14	0.2
資産合計	3,895	100.0	5,337	100.0	5,945	100.0
(負債の部)						
流動負債	4,278	109.8	3,117	58.4	3,717	62.5
1 短期借入金	1,281		324		1,043	
2 その他	2,994		2,790		2,672	
固定負債	2,151	55.3	2,180	40.9	2,201	37.1
1 長期借入金	1,834		1,492		1,671	
2 その他	317		688		529	
負債合計	6,430	165.1	5,297	99.3	5,919	99.6
(純資産の部)						
株主資本						
1 資本金	3,868	99.3	1,934	36.2	1,934	32.5
2 資本剰余金	2,100	54.0				
3 利益剰余金	8,503	218.4	1,894	35.5	1,908	32.1
純資産合計	2,535	65.1	39	0.7	26	0.4
負債純資産合計	3,895	100.0	5,337	100.0	5,945	100.0

(2) 中間損益計算書

(単位:百万円)

期別 科目	前中間会計期間 (自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)		当中間会計期間 (自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)		前事業年度の 要約損益計算書 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	百分比
		%		%		%
営業収入	9,052	100.0	10,934	100.0	19,363	100.0
事業費	9,104	100.6	9,906	90.6	18,613	96.1
営業総利益(損失)	52	0.6	1,028	9.4	749	3.9
販売費 及び一般管理費	849	9.4	991	9.1	1,783	9.2
営業利益(損失)	902	10.0	36	0.3	1,033	5.3
営業外損益	94	1.0	81	7.0	116	0.6
経常損失	996	11.0	45	0.4	1,149	5.9
特別利益			61	0.5	938	4.8
特別損失	34	0.4			334	1.7
税引前中間純利益又は 税引前中間(当期) 純損失()	1,031	11.4	16	0.1	545	2.8
法人税、住民税及び 事業税	7	0.1	2	0.0	13	0.1
中間純利益又は 中間(当期)純損失()	1,038	11.5	13	0.1	559	2.9

5. 業績等の概要

当中間連結会計期間における我が国の経済は、企業収益の改善や設備投資の増加、雇用情勢の改善、輸出の増加などを背景に、緩やかに回復を続けています。一方、原油価格の高騰が国内外の経済に与える影響は大きく、航空業界においても各社で運賃値上げが相次ぐなど、引き続き深刻な影響を及ぼしています。

当社では、平成19年2月、約2年9ヶ月にわたる株式会社産業再生機構による支援を終了し、新たなスポンサーとして宮交エアグランドサービス株式会社を迎えました。これに伴い、宮崎交通グループとのビジネスパートナーシップを強化するなど、新しい経営環境の下、当期をスタートさせることとなりました。経営資源の有効活用による相乗効果と業績向上、さらに陸と空の“キャリアパートナー”としての関係強化を目的に、当社と宮崎交通グループによる共同プロジェクトを立ち上げ、このプロジェクトにおいては、国内では初の「航空機内」と「バス車内」が一体となった機内・車内誌を刊行するなど、活発な活動を行っています。

そのような中、当社の再建計画の一環であり、「2005年度11月～2007年度中期3ヵ年計画」のSNAビジョン基本戦略である“黒字化”のための重要な施策として、平成19年9月1日から従来の3路線（宮崎線・熊本線・長崎線）を再編成し、鹿児島線を加えた4路線体制での運航を開始しました。

運航面では、予備機2機を含む8機での運航体制などを背景に、当中間連結会計期間における全路線平均の就航率は98.5%と、前中間連結会計期間の97.4%に対し約1ポイント改善しました。

営業面では、前年度に行った運賃改定（適用年齢を拡大した「シニア55割引」や大幅値下げをした「小児普通運賃」や「回数券」など）が好評を博し、また、リピーターのお客様への日頃のご愛顧に対する感謝を還元することにより、一層のリピーターのお客様の確保を目指して開始した“10回乗ったら現金1万円または片道無料航空券をプレゼント”する「スマイルバックキャンペーン」のご応募も増加するなど、様々な営業施策が実を結んできております。一方で、7月～8月の夏期繁忙期に台風による欠航便が多数発生するなど、収入に与える影響も受けました。

上記のような就航率の向上や営業面での取り組みが奏功し、各路線の当中間連結会計期間における平均搭乗率は、宮崎-東京線78.0%、熊本-東京線69.2%、長崎-東京線64.2%、鹿児島-東京線64.9%で、各路線とも上期としては過去最高の搭乗率を記録しました。

以上の結果、連結ベースでは営業収入が10,950百万円（前年同期比20.9%増）となりました。事業費は、9,906百万円（同8.8%増）、販売費及び一般管理費998百万円（同14.0%増）となり、この結果、営業利益は45百万円（前年同期は921百万円の営業損失）となりました。

営業外収益4百万円及び営業外費用87百万円を加減した経常損失は38百万円（同96.3%減）となりました。また、特別利益28百万円の計上により、税金等調整前中間純損失は9百万円（同99.1%減）、中間純損失は12百万円（同98.8%減）となりました。

当中間連結会計期間における営業収入及び事業費の増加は、主として、搭乗率の向上による増収や、原油価格の高騰及びリース機材の増加に伴う費用の増加によるものであります。

以上

別紙 1

中間連結財務諸表

(1) 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

区分	前中間連結会計期間末 (平成18年9月30日)		当中間連結会計期間末 (平成19年9月30日)		前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (平成19年3月31日)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
		%		%		%
(資産の部)						
流動資産	2,266	57.3	2,574	47.8	3,409	56.7
固定資産	1,680	42.5	2,802	52.0	2,591	43.1
繰延資産	11	0.2	11	0.2	14	0.2
資産合計	3,957	100.0	5,388	100.0	6,014	100.0
(負債の部)						
流動負債	4,326	109.3	3,163	58.7	3,758	62.5
1 短期借入金	1,281		324		1,043	
2 その他	3,043		2,837		2,713	
固定負債	2,152	54.4	2,183	40.5	2,202	36.6
1 長期借入金	1,834		1,492		1,671	
2 その他	318		691		530	
負債合計	6,479	163.7	5,347	99.2	5,960	99.1
(純資産の部)						
株主資本						
1 資本金	3,868	97.8	1,934	35.9	1,934	32.1
2 資本剰余金	2,100	53.1				
3 利益剰余金	8,490	214.6	1,893	35.1	1,880	31.2
純資産合計	2,521	63.7	41	0.8	53	0.9
負債純資産合計	3,957	100.0	5,388	100.0	6,014	100.0

別紙 2

(2) 中間連結損益計算書

(単位:百万円)

区分	前中間連結会計期間 (自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日)		当中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)		前連結会計年度の 要約連結損益計算書 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	百分比
		%		%		%
営業収入	9,059	100.0	10,950	100.0	19,386	100.0
事業費	9,104	100.5	9,906	90.5	18,613	96.0
営業総利益(損失)	45	0.5	1,044	9.5	773	4.0
販売費及び 一般管理費	876	9.7	998	9.1	1,818	9.4
営業利益(損失)	921	10.2	45	0.4	1,045	5.4
営業外損益	99	1.1	83	0.7	124	0.6
経常損失	1,020	11.3	38	0.3	1,169	6.0
特別利益			28	0.2	938	4.8
特別損失	19	1.1			309	1.6
税金等調整前 中間(当期)純損失	1,040	11.4	9	0.1	540	2.8
法人税、住民税及び 事業税	7	0.1	2	0.0	13	0.1
中間(当期)純損失	1,047	11.5	12	0.1	554	2.9